



# 水虫

梅雨に入り湿度が高くなるこれからの時期、水虫の感染リスクは高くなります。

水虫に感染した場合、人から人への感染も少なくありません。そこで今回は水虫に関する知識や予防をおさえましょう。

## 水虫について

水虫とはカビの1種である白癬菌が感染して発症する足白癬の俗称です。

白癬菌は手や体、頭にも感染しますがそのほとんどが足に感染します。白癬菌は皮膚に付着しただけですぐに発症しません。水虫が発症するには、傷ついた角質などに白癬菌が入り込み長時間にわたり白癬菌が付着した状態に加えて、白癬菌が増殖しやすい高温多湿など環境が整った場合です。

## 水虫の種類

白癬菌が感染した部位によってそれぞれ名称と特徴があります。

■ **足白癬**・・・ 足にできる水虫の総称が足白癬です。代表的な足白癬には3つの型があります。

しかんがた 趾間型	足の指の間に発生した水虫の中でも発生が最も多いタイプです。白くふやけてたでれます。
しょうすいほうがた 小水疱型	足底から足のふち、土踏まずあたりに小さな水疱が発生し、破れた後に皮がむけてきます。
かくしつ ぞうしょくがた 角質増殖型	足の裏やかかとの皮膚が厚く硬くなり、進行するとひび割れを生じて痛みがでるのが特徴です。

■ **爪白癬**・・・ 爪全体が白くなるのが特徴で、足の親指が感染しやすいです。爪がボロボロになったり、分厚くなって市販の爪切りで切れなくなったりすることがあります。

■ **手白癬**・・・ 足白癬によく似た症状がでます。足と比較すると発症率は低く、片手のみに現れることもあります。

### 【参考文献】

- ・日本皮膚科学会HP
- ・ロート製薬株式会社 商品情報サイト
- ・日本皮膚科学会皮膚真菌症診療ガイドライン2019



## ■ 体部白癬(ぜいたむし)・・・

胴体や首、顔を始めた体のいたるところにかゆみを伴う、紅色の発疹やみずぶくれが円状に広がります。円の中心は色素沈着を残して回復するのがほとんどです。ただ犬や猫などのペットからうつる場合もあり、ペットが感染していた場合は治療が必要です。

■ **股部白癬(いんきんたむし)・・・** 成人男性に多く発症し、太ももあたりから陰部にかけて発症します。紅色の斑点ができ次第に周辺に広がります。強いかゆみを伴うのも特徴です。

■ **頭部白癬**・・・ 頭皮に発症する水虫で、発症すると斑点状に髪の毛が抜けたり発疹ができてただれたり、フケのようなものが見られることがあります。

## 水虫の治療方法

通常の足白癬の場合は、抗真菌作用(水虫の原因菌を殺菌)がある塗り薬をしっかりと使用すれば、改善されます。

しかし角質が厚くなってしまい薬液が浸透しない場合や爪や髪の毛に白癬菌が寄生している場合、飲み薬を服用するケースがあります。飲み薬はほとんどの水虫に有効な反面、飲み合わせの悪い薬が多いなど注意が必要です。

## 水虫の予防

■ **高温多湿を回避**・・・ 水虫の原因菌である白癬菌は、高温多湿を好みます。長時間靴を履き続けたり、分厚い靴下を着用したりするなどの蒸れた状態が続くと水虫の発症の原因となります。そのため、長時間靴を履き続ける場合は、こまめに脱いで風を通す、またはサンダルのような通気性のいい靴を履くようにしましょう。

■ **外出時のケア**・・・ 温泉やプールまたはジムなどの不特定多数の人が利用する脱衣所にあるバスマットには白癬菌が100%存在します。それらを使用した際は水分をしっかりと拭き取り乾かしてから靴下を履くようにしましょう。その時間がとれない場合は、帰宅後すぐに足を丁寧に洗い感染を防ぎましょう。